

施策番号	施 策 名	社会教育の推進	基本目標	心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり		
2-1-2			政策名	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実		
	主 管 課	生涯学習課	課長名	江崎 健一	内 線	451
	施策関係課	教育推進課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果		
学習機会や場の提供など学習環境の充実に 図るとともに、自発的な取組への支援を図り ます。		町民	・「いつでも」「どこでも」「だれでも」が学 ぶことができる学習環境を整備する 町民一人ひとりが自ら進んで学習 に取り組み、人と人がふれあい、 心豊かに充実した障がいを通越せ るまちづくり						
成果指標		説明	単位	策定時【基準値】	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績	2026年度目標
①	児童生徒の社会教育事業 への参加者数	社会教育課調べ	人	419 (R3)	291	457			1,190
②	生涯学習の機会が充実し ていると思う町民の割合	住民意識調査	%	76.0	77.3	80.9			80.0
③									
④									
成果指標 設定の考え方		①児童生徒数の減少率を考慮するも参加率を維持するもの。 ②前期計画で達成できなかった40%の目標値を超える評価を目指すもの。							

2. 施策の事業費

	策定時決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費（千円）	102,934	135,246	156,776		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察							
①2024年度の成果評価 (前年との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した	想定される理由	①の指標は、読書感想文コンクールの応募数に大きく影響を受けたところであるが、R6年度から新たな取組を実施したことに伴い前年度比較として成果指標の向上につながった。 ②については、少年教育各種事業、ジモト大学、コミュニティスクールや公民館、図書館、ふるさと歴史館等の各種事業の実施に一定の理解がされた結果と捉える				
	<input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった						
	<input type="checkbox"/> 成果は低下した						
②第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる	根拠(理由)	①の参加者数については、読書感想文コンクールの応募数の減少(学校の授業等で取り扱わなくなった)により目標数には届いていない状況が続いていたが、令和6年度から新たにPOP部門の新設もあり、応募点数が多くなったことに伴うものである。 ②の指標については、コロナ禍も終了し、想定される理由にも示したとおり各種社会教育事業が実施されたこと。また、ジモト大学やコミュニティ・スクール事業等を通して、広く住民を巻き込んだ事業が、まちづくりの一翼として貢献されてきたものとする。				
	<input checked="" type="checkbox"/> いが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能						
	<input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい						
(2) 施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括							
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	少年教育活動運営事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業					
	コミュニティ・スクール運営事業						
	公民館施設維持管理事業						
	中学生国際交流事業						
③事務事業全体の振り返り(総括)	各種事業がすべて再開された中で、各事業の点検、確認等を行いながら、よりアップデートされた事業となるよう考えていこうにしたい。 その中で事業の廃止、統廃合等出来ることも検討していきたい。 人財育成の観点からジモト大学の取り組みやコミュニティスクール事業が浸透してきたことは明るい材料であり、これらを着実に推進することで、新たなコミュニティの広がりや、まちづくりにも貢献できるものとする。						
	(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)						
担当課評価	社会教育分野に係る様々な事業(少年教育各種参加・体験事業、公民館、図書館、ふるさと歴史館、ジモト大学、コミュニティスクール、柏樹学園、家庭教育学級等)を通して、幅広い年代に事業を展開できたことが、満足度をあげる要因になったものとする		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

A: 実現した      B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した      C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した  
D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した      E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<ul style="list-style-type: none"><li>・生涯学習において「いつでも、どこでも、誰でも」が自由に学べる学習環境の整備<ul style="list-style-type: none"><li>→電子図書の実施(R5.10～)</li><li>→身障者にも配慮した図書機能の充実</li><li>→公民館事業、ふるさと歴史館等、興味を引く事業の実施</li></ul></li><li>・子ども会活動の減少<ul style="list-style-type: none"><li>→少子化に伴う単位子ども会の減少は、町内会活動にも通じる</li><li>町内会担当の魅力創造課との連携についてR7年度事業展開を予定。</li></ul></li><li>・柏樹学園の活性化<ul style="list-style-type: none"><li>→生徒数の減少傾向は落ち着いてきたところであるが、さらなる活性化のため、他自治体の状況等の確認を行う</li></ul></li><li>・コミュニティ・スクール事業<ul style="list-style-type: none"><li>→学校支援ボランティアが増える等徐々に浸透してきている</li></ul></li><li>・ジモト大学事業<ul style="list-style-type: none"><li>→白樺学園だけでは無く、芽室高校にも探究の時間として活用する等の動きが出てきた。</li><li>居場所づくりプロジェクト等の新たな動きにつなげる</li></ul></li></ul>
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	<ul style="list-style-type: none"><li>・コミュニティ・スクールの取組みについて、CS通信、学校支援ボランティアの活動事例の紹介等について冊子作成、配布し認知度向上に努めた。</li><li>・子ども会活動の継続支援(単位会の減少や役員のなり手不足等の現状把握と対応)</li><li>・ふるさと歴史館の活用(各種講座、特別展示等の実施)</li><li>・図書館機能の充実(電子図書の拡大・浸透)</li></ul>

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たにに取り組むべき課題)

<ul style="list-style-type: none"><li>・社会教育推進中期計画(R5-R8)の着実な推進と次期計画に向けた対応の検討</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・地域コミュニティの活性化<ul style="list-style-type: none"><li>→コミュニティスクールの浸透を通し、地域に開かれた学校の推進と地域住民とのコミュニティの醸成</li><li>→ジモト大学事業による人財育成。人的ネットワークの形成。地域コミュニティの活性化。</li><li>→柏樹学園の充実～他自治体を参考</li><li>→単位子ども会の減少～町内会活動(魅力創造課)との連携</li></ul></li><li>・社会教育施設の有効活用と維持管理<ul style="list-style-type: none"><li>→公民館機能の発揮(各種講座等の推進)</li><li>→図書館機能の推進(電子図書の浸透、拡大)</li><li>→クーリングシェルト機能の確認(中央公民館・図書館)</li><li>→ふるさと歴史館の運営と事業の充実(各種講座、体験会、特別展示等の実施)</li></ul></li></ul>

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A:実現した B:〔後期実施計画策定時と比較して〕大きく前進した C:〔後期実施計画策定時と比較して〕前進した D:〔後期実施計画策定時と比較して〕変わらない又は維持した E:〔後期実施計画策定時と比較して〕後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価同様に前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・子どもと大人がどちらも学べる形ができていけるといいと思う。</li><li>・部活動の地域移行について、社会教育委員・スポーツ推進委員で、同じテーマで話していても話し合う内容が違う。そのため、皆で話す機会を作ってもらえたらと思う。</li><li>・住民が動きたくなくなるような雰囲気づくり・立ち位置を今後も続けてほしい。</li><li>・学習について歴史、郷土史に取り組んだ方がいいと考えている。</li></ul> 郷土愛を育む、国際交流にもつながる。歴史館・図書館を活用して企画展など歴史を学ぶ場をつくるといいと思います。	A:実現した B:〔後期実施計画策定時と比較して〕大きく前進した C:〔後期実施計画策定時と比較して〕前進した D:〔後期実施計画策定時と比較して〕変わらない又は維持した E:〔後期実施計画策定時と比較して〕後退した					